

大人の地域再発見誌

vol.
20・21

合併号・最終号

こうのす



荒川・自然と共に生きる小谷を歩く

●はじめに

鴻巣市の北西部に位置する小谷地区（旧小谷村）は、小谷村、明用村、前砂村、三町免村が明治22年（1889）に合併して誕生した。その後、昭和29年（1954）に旧吹上町に合併して消滅し、2005年の合併で鴻巣市となった。地区の西側には荒川が流れ、東端部には高崎線と平行して中山道が通る。荒川は重要な交通路である一方で、堤防ができる前には度々氾濫してきた。小谷地区は荒川から多くの恵みを得る一方で、時には試練を受けてきた。まさに、荒川の自然と共に生きてきた地域なのである。

今号は、前回に引き続き、観光ボランティア鴻巣ガイド会とのコラボ企画で、2021年10月に実施された小谷地区の歴史散歩をベースとして、小谷地区の見所を紹介する。



1 三島神社古墳(明用)

三島神社は旧明用村の村社である。拝殿が乗る高まりは、6世紀後半に築造された前方後円墳(三島神社古墳)である。市内には20基近い古墳が残るが、前方後円墳は三島神社古墳が唯一である。墳丘は崩れており、形はわかりにくい。発掘調査により、周濠や埴輪が確認されている。社殿建設によって石室が破壊されており、石室の天井石と考えられる石材が、拝殿前に使われている他、階段横にも残されている。



拝殿全景と階段横に置かれた石室石材



拝殿正面と石室石材



墳丘の様子

2 観音寺(明用)

観音寺は真言宗の寺院。敷地内には建長6年(1254)の板碑や市の指定文化財である観音寺の庚申塔群がある。庚申塔は6基あり、寛文3年(1663)が最も古い。他に馬頭観音なども一緒に並んでいる。また、境内にある大聖歓喜天の前に置かれている小型の狛犬は、製作年の記載はないものの、明用村と彫られており、明治22年以前のものであると考えられる。



建長6年(1254)の板碑



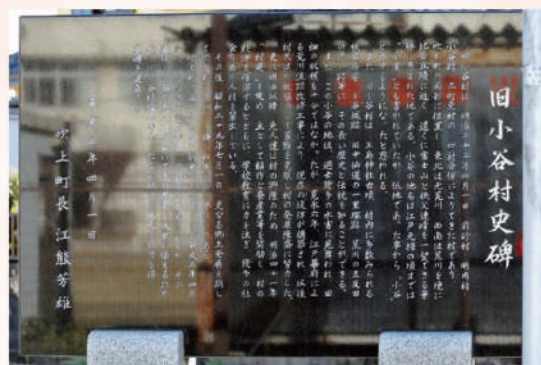
観音寺の庚申塔群



大聖歓喜天の狛犬

3 小谷村史碑・道路元標

小谷小学校の南、消防団の車庫がある場所は、旧小谷村役場跡である。その一角に小谷村の沿革等が記された碑が建てられている。また、碑のすぐ近くには旧小谷村の道路元標が残っている。



小谷村碑



道路元標

4 龍昌寺(前砂)

龍昌寺は前砂の中山道近くにある曹洞宗の寺院である。境内には鴻巣市指定考古資料である「前砂の板碑群」が並べられている。前砂の板碑群は昭和8年頃に実施された元荒川改修の際に前砂地内の河畔より多数出土し、56基を龍昌寺に移したものである。その後、昭和54年に同じく塚ノ越から出土した16基が加えられた。



板碑群

5 堤防脇の石塔群、6 旧松山道脇の供養塔、7 五反田河岸(小谷)

五反田河岸は松山道に属しており、荒川を渡るために小谷側の五反田と吉見側の五反田に河岸が作られ、渡し舟や荒川を上下する舟運が運行されていた。昭和4年から始まった河川工事で住民が五反田を離れると河岸も閉じられた。

河川改修の影響もあり、河岸の面影は全く残っていない。小谷の堤防脇にある石塔群には水神など水に関わる石塔が、堤防内の旧松山道沿いには道標を兼ねた享保7年(1722)の供養塔があり、かつての松山道や五反田河岸の面影を今に伝える。なお、対岸の吉見町側は、吉見ゴルフ場のクラブハウス前に五反田河岸を伝える石碑、その近くの道路脇には道標が残されている。



石塔群



五反田河岸付近の荒川



旧松山道脇の供養塔(享保7年)

8 宝勝寺(小谷)

宝勝寺は曹洞宗の寺院で、宝持寺の末寺。本尊は釈迦如来座像である。開祖は小谷城主の小宮山弾正と伝わる。金乗寺の西側にあり、門の前には江戸時代の石塔・石仏が並んでいる。境内は、かつての小谷城内の推定範囲内である。



宝勝寺

9 金乗寺(小谷)

金乗寺は真言宗智山派の寺院である。かつては堤防より荒川側の小谷城内に所在したが、寛永6年(1629)の荒川流路変更工事に伴って寛永9年(1632)に現在地に移転したとされる。教育に大きく貢献した歴代住職も多く、法印墓地には筆子碑が多く残る。

境内に入ってすぐの場所には江戸時代の年号が刻まれた石塔・石仏が並び、墓地の入口には鴻巣市指定考古資料である仁治3年(1242)の双式板碑が保存されている。板碑の説明板と実際の位置が少し離れている。



本堂



板碑

10 小谷城跡(小谷)

忍城の延命3年(1491)頃に出城として造られたとされる。忍城主・成田氏の家臣である小宮山内膳の居城と伝えられる。文政11年(1828)の「新編武蔵風土記稿」にも記述があり、現在の宝勝寺から堤防を挟んだ河川敷の一角が城の範囲とされる。一角には城山、小城池(小城が池)、元屋敷など、城に関連した地名が残るが、明確な遺構は残っていない。宝勝寺近くの堤防上に案内板がある。



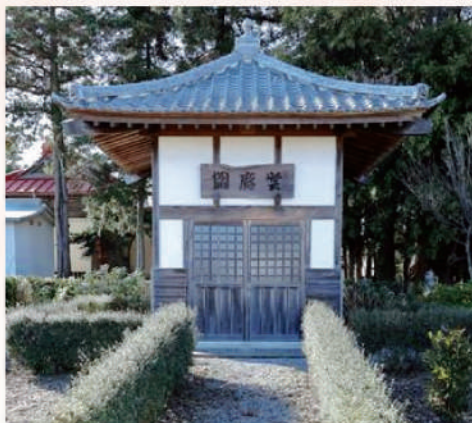
小谷城跡



堤防上の案内板

11 閻魔堂(小谷)

閻魔堂は日枝神社の隣にある。この場所は、かつての焰魔寺の跡地である。焰魔寺は江戸時代から明治時代の初めまで小谷村の寺子屋であり、現在の鴻巣市立小谷小学校の前身でもある。師匠は金乗寺の住職が代々務めた。焰魔寺の頃の本尊である地藏菩薩は、金乗寺に移され、今に伝わっている。



閻魔堂

12 日枝神社(小谷)

旧小谷村の鎮守であるが、創建の詳しい年代は不明である。かつては山王社と称していたが、明治時代の神仏分離により、現在の日枝神社に改められた。日枝神社には鴻巣市の伝統芸能である、ささら獅子舞が保存・継承されている。また、日枝神社の本殿は、彫刻や色彩が今も綺麗に残り、その彫刻のモチーフ、技法や残された墨書から、国宝・妻沼聖天の建築に関わった大工や彫刻師との関連が指摘されている。



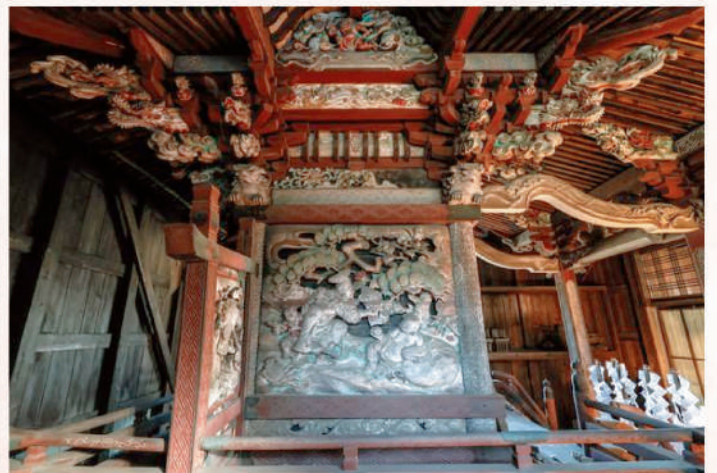
拝殿の全景



本殿正面



本殿背面の彫刻



本殿右側面



本殿左側面下段の彫刻



石製の神殿狛犬

●終わりに

小谷に残る史跡・名勝を紹介した。観光ボランティア鴻巣ガイド会が実施した歴史散歩は、小谷小学校より南側を中心に巡ったが、鴻巣市に残る唯一の前方後円墳等や年号が読みやすい観音寺の板碑も紹介したいと思い、本特集では範囲を広げてみた。紹介できなかった神社、庚申塔などの石塔も各所に残されており、それらを見つけながら歩くのも歴史散歩の醍醐味といえる。是非、何度も訪れてみて欲しい。

末尾になりますが、取材や内容について御協力・御指導を頂いた方々に感謝申し上げます。

(文：高橋 敦、写真：長島信幸)